

今こそ身につけたい“教養”、 大人のためのWebマガジン「LINK@TOYO」

LINK@TOYOは、本学の先駆的な研究や人材を通じて、暮らし・ビジネス・社会問題・スポーツ・芸術などあらゆる“教養”の獲得を後押しするWebマガジンです。総合大学である本学ならではの幅広い研究と、個性豊かな在学生・卒業生による活動など豊富なコンテンツを展開しています。



▼ What's New

SOCIAL 災害時の明暗を分ける「情報」。減災・防災につながるリスク・コミュニケーションを専門家が語る
社会学部メディアコミュニケーション学科 中村功教授

LIFE 缶詰博士・黒川勇人さんに聞いた「おいしく防災に備える！」缶詰の秘密
缶詰博士 黒川勇人さん 1990年 文学部印度哲学科(現・東洋思想文化学科) 卒業

CULTURE 舞踊評論家に聞く!クラシックバレエの楽しみ方。国際化の時代に世界中から注目されるバレエの魅力とは?
社会学部メディアコミュニケーション学科 海野敏教授

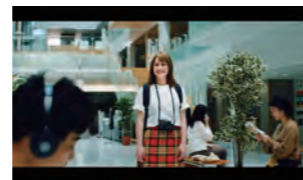
CULTURE なぜ、現代短歌がZ世代の心をつかむのか? ブームの鍵は「いいね」にあった
文学部日本文学文化学科 高柳祐子准教授

<https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/>



海外向けPR動画「Toyo U x To You」を公開

本学の研究・教育そして外国人留学生の学生生活を海外に向けて発信するPR動画を公開しました。グローバル化を推進する本学のスピード感、国際性・多様性を海外に向けてPRする内容となっており、外国人留学生を主人公に、本学の各所を巡る中で多くの出会いやその心情などを描いたシネマ調の動画に仕上げました。加えてマイクロドローンでキャンパス内を撮影したダイナミックな映像のコラボレーションにより、グローバルに変容する本学の姿を表現しています。ぜひご覧ください。



<https://youtu.be/7EWjMnB28ks>

大学生活に役立つ情報が満載 学報バックナンバー

学報のバックナンバーは、
本学Webサイトでご覧いただけます。

<https://www.toyo.ac.jp/about/gakuhou/>



TOYO UNIVERSITY NEWS -English Edition-

The English edition of TOYO UNIVERSITY NEWS is available
on the University's official website.
To read the English edition, access the web page below.

<https://www.toyo.ac.jp/en/about/gakuhou/>



東洋大学教育・研究協力資金 ご支援のお願い

東洋大学では、日本および世界の将来を見据え、先進的な知的拠点の確立を目指すとともに、国際社会で活躍できる人材育成に取り組んでおります。そこで、本学の教育・研究協力資金のご支援をお願いするための情報発信を行う本学Webサイトを公開しています。詳細は右記URLからご覧ください。 <https://kifu.toyo.ac.jp/>



発行日/2021年12月16日
発行/東洋大学
編集/総務部広報課
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
TEL 03-3945-7571
URL <https://www.toyo.ac.jp> E-mail mlkoho@toyo.jp

次号の発行予定は、2022年3月です。(英語版はWebサイトで公開予定)

TOYO UNIVERSITY NEWS

Dec. 2021 No.264

TOYO NEWS

UNIVERSITY

東洋大学報

Dec. 2021
No.264

世界の舞台で輝いたTOYO 東洋大学と東京五輪 東洋大学 大学祭レポート2021



2021年白山祭テーマカラーをモチーフとしたビッグフラワーディスプレイ(白山キャンパス6号館地下)

CONTENTS

- 04 | 世界の舞台で輝いたTOYO
東洋大学と東京五輪

- 07 | 第24回ホームカミングデーにて、
東京オリンピック・パラリンピック
表彰式・報告会を挙行

- 08 | Professor's Scoop
生命科学部生命科学科 助教
郡司 芽久

- 10 | 東洋大学 大学祭レポート2021

- 12 | 第98回箱根駅伝
その1秒をけずりだせ!

- 14 | Alumni Report
東洋大学附属牛久高等学校 陸上競技・駅伝部監督
山本 浩之

- 16 | NEWS・INFORMATION



オーナメント完成をともに喜ぶ矢口悦子学長と白山祭実行委員会

TOYO UNIVERSITY NEWS
-English Edition-

The English edition of TOYO UNIVERSITY NEWS is available
on the University's official website.
To read the English edition, access the web page below.

<https://www.toyo.ac.jp/en/about/gakuhou/>



世界の舞台で輝いたTOYO

東洋大学と東京五輪

今年開催された東京オリンピック・パラリンピックに、本学からは在学学生3名、卒業生12名が日本代表として選出、一大会としては本学史上最多15名の選手が出場しました。

競泳女子200mおよび400m個人メドレーでは大橋悠依選手(2018年卒業)が2つの金メダルを獲得。日本競泳女子史上初となる2冠を達成すると、陸上競技男子20km競歩では池田向希選手(2021年卒業)が銀メダルを獲得。連日、世界の舞台で躍動する選手たちが多くの感動を与えてくれました。

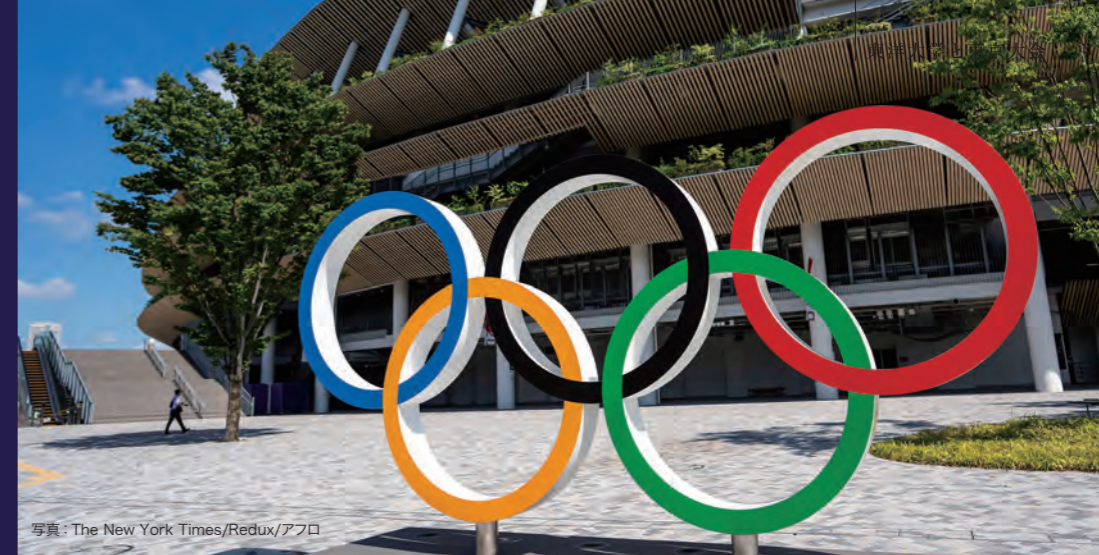


写真: The New York Times/Redux/アフロ

大会に出場した在学学生からのメッセージ

写真で振り返る東京五輪



水泳部
酒井 夏海選手

法学部企業法学科 2年

出場種目 競泳/女子4×100mフリーリレー
予選全体9位: 3:36.20

水泳部
白井 璃緒選手

国際観光学部国際観光学科 4年

出場種目 競泳/女子4×200mフリーリレー
予選全体9位: 7:58.39

陸上競技部 短距離部門
鈴木 碧斗選手

法学部企業法学科 2年

出場種目 陸上競技/男子4×400mリレー
予選全体10位: 3:00.76 (日本記録タイ)

練習を積み重ね 次のオリンピックで高みへと。

東洋大学に入学してから初めての日本代表での国際大会だったので、その責任と自覚、覚悟をしっかりと持って出場しようと考えていました。今回はフリーリレーに出場し、自分がレースに出ている時よりも、会場で仲間のレースを見ている方が多い大会となってしまいましたが、次のパリ大会ではより良い泳ぎができるよう、さらに練習を積み重ねていきたいと思っています。

無観客開催でしたが、たくさんの方から応援をいただき感謝しています。大学に入り人との出会いが増えた分、支えられて競技ができていたことをより実感しました。これからも精一杯頑張っていくので、応援よろしくお祈りします。

パリ大会に向け、強くなっていく私を見てもらいたい。

私はオリンピックへの出場を目指して東洋大学に入学しました。今回夢を叶えることができ、その選択に間違いはなかったと思っています。

東京大会を経験して、やはり世界で戦うためには世界で通用する練習をしなければと感じました。すでにパリ大会に向けて動き出しているので、今後さらに強くなっていく私の姿を皆さんに見てもらいたいです。また、日本代表として世界で戦う覚悟をもって競技と向き合う先輩方のレベルに近づいていきたいです。

東京大会の日本代表に決まった時から本当に多くのメッセージをいただきました。その応援があったからこそ、今の私があると思っています。ありがとうございました。

世界の舞台で戦った自信を胸に、来年の世界陸上を目指す。

今シーズンが始まった時はまだ、オリンピックの舞台に立てるとは思いませんでした。5月の世界リレーで初めて日本代表になり、海外選手とも勝負できる自信がついたことが東京大会出場に繋がるきっかけになったと思います。初出場の結果は、日本記録タイ。世界のトップ選手とともに走り、ピリピリした空気を肌で感じたレースとなりました。

今回、とても多くの方からメッセージをいただきました。こんなに応援していただいたことは初めてで、日本代表選手として選ばれることの責任も強く感じました。来年は個人200mでの世界陸上出場を1つの目標に、まずは参加標準記録突破を目指して頑張ります。

▼酒井夏海選手(7月24日 東京アクアティクスセンター)



写真: 杉本哲大/アフロ

▼白井璃緒選手(7月28日 東京アクアティクスセンター)

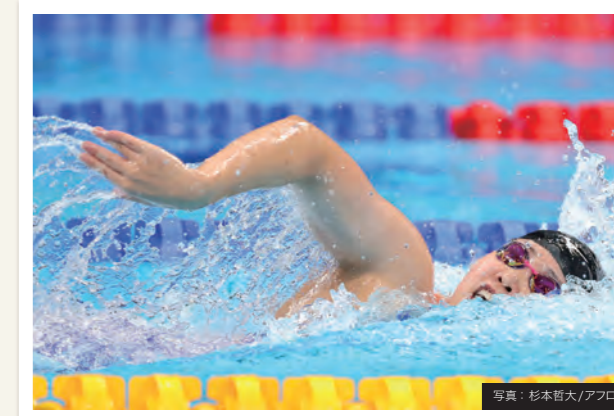


写真: 杉本哲大/アフロ

▼鈴木碧斗選手(8月6日 国立競技場)



写真: 長瀬友哉/フォト・キンモト

東京五輪本学関係者結果報告

選手

大橋 悠依 選手
2018年 国際地域学部国際観光光学科卒業

競泳
女子200m個人メドレー
金メダル：2:08.52
女子400m個人メドレー
金メダル：4:32.08
写真：三船貴光/フォート・キシモト

東洋大学には在学中も卒業後も、変わらずたくさんの応援、サポートをしていただきありがとうございます。今回、東洋大学の皆さんにたくさん応援していただき非常に嬉しかったです。

池田 向希 選手
2021年 経済学部経済学科卒業

陸上競技
男子20km競歩
銀メダル：1:21:14
写真：長瀬友哉/フォート・キシモト

今年3月に卒業したばかりですが、東洋大学に入學してなければこの結果はあり得なかったと思います。良き指導者に出会い、4年間多くのことを学ぶことができました。

相澤 晃 選手
2020年 経済学部経済学科卒業

陸上競技
男子10,000m
第17位：28:18.37
【シーズンベスト】
写真：長瀬友哉/フォート・キシモト

初めてのオリンピックで緊張しましたが、3年後のパリ大会に向けて自分がやらなければいけないことが認識できた収穫のある大会でした。パリでは今回成し遂げられなかった入賞を目標に頑張っていきます。

青木 玲緒樹 選手
2017年 経営学部経営学科卒業

競泳
女子100m平泳ぎ
予選全体19位：1:07.29
写真：三船貴光/フォート・キシモト

オリンピックは夢であり、ようやく掲げた目標だった場所。本番では緊張もあり、思うように力を発揮できず結果は出せませんでした。そこに至るまでの過程が私の中で大切な時間であり経験になりました。

稲葉 将 選手
2018年 国際地域学部国際観光光学科卒業

パラ馬術
個人グレードIII
15位：スコア67.529%
団体グレードIII
9位：最終得点率70.118%
写真：毎日新聞社/アフロ

メダルや入賞という結果ではありませんが、自己ベストを出すことができました。たくさんの方に支えられ応援いただいたおかげです。来年の世界選手権、3年後のパリ大会に向けて努力していきます。

ウォルシュ ジュリアン 選手
2019年 ライフデザイン学部健康スポーツ学科卒業

陸上競技
男子400m
予選全体37位：46.57
写真：長瀬友哉/フォート・キシモト

日頃、皆さまの応援があるからこそ私は走ることができると思っています。ありがとうございます。そして東洋大学という本当に素晴らしい母校があるので、これからも頑張って走り続けたいです。

川野 将虎 選手
2021年 総合情報学部総合情報学科卒業

陸上競技
男子50km競歩
6位入賞：3:51:56
【シーズンベスト】
写真：フォート・キシモト

今大会で6位に入賞できたのは、在学中から卒業後も続く酒井瑞穂コーチの温かいご指導や東洋大学の恵まれた環境のおかげです。世界選手権やパリ大会も頑張っていきます。

桐生 祥秀 選手
2018年 法学部企業法学科卒業

陸上競技
男子4x100mリレー
決勝：途中棄権
写真：長瀬友哉/フォート・キシモト

東洋大学には結果が良い時だけでなく、悪い時もいつも応援していただいています。その恩は結果で返すしかないと思っているので、次はメダルを持って感謝を伝えたいです。

津波 響樹 選手
2020年 ライフデザイン学部健康スポーツ学科卒業

陸上競技
男子走り幅跳び
予選全体26位：7m61
写真：フォート・キシモト

あらためて東洋大学で学生生活を送ってよかったと感じています。今回は自分の納得のいく結果ではありませんでしたが、世界選手権やパリ大会に向けて引き続き頑張っていきます。

萩野 公介 選手
2017年 文学部英語コミュニケーション学科卒業

競泳
男子200m個人メドレー
6位入賞：1:57.49
男子4x200mフリーリレー
予選全体12位：7:09.53
写真：三船貴光/フォート・キシモト

東京大会では個人的に納得する結果ではなかったのですが、1本1本全力を出して泳ぎることができました。開催も危ぶまれていた東京大会で、最後の決勝まで戦えたことが本当に幸いです。

服部 勇馬 選手
2016年 経済学部経済学科卒業

陸上競技
男子マラソン
第73位：2:30:08
【シーズンベスト】
写真：フォート・キシモト

目標であった入賞を果たせず、悔しい一言に尽きる大会でした。いろいろと反省する面はありますが、今後日本記録への挑戦やパリ大会へ向け、この悔しい経験を活かし一杯頑張っていこうと思います。

山口 凌河 選手
2019年 社会学部社会福祉学科卒業

パラ球技
男子ゴールボール
準々決勝：敗退、5位入賞
写真：フォート・キシモト

すでに3年後のパリ大会に向けて再始動しています。大学時代には学生部の方々や先生をはじめさまざまな方にお世話になり、自分の成長へと繋がりました。これからも変わらないご指導、そして応援をお願いします。

指導者

酒井 俊幸 監督
陸上競技部長距離部門監督

本学関係者からのご声援、嬉しく思います。ロンドン、リオに続き、東京大会では陸上競技部最多の8名を日本代表として輩出することができました。1年延期になりながら開催に尽力していたことに、心より感謝申し上げます。

酒井 瑞穂 コーチ
陸上競技部長距離部門競歩担当コーチ

競歩の池田選手・川野選手は本来であれば在学中の出場でした。それが叶わず不安もあったかと思いますが、東洋大学のプライドを持って臨み、また多くの応援に背中を押され、結果に繋がりました。ありがとうございました。

土江 寛裕 コーチ
法学部教授/陸上競技部短距離部門コーチ
陸上男子短距離強化コーチ

1年延期し社会も混乱するなか、開催していただいたこと、私たちに戦う舞台を準備していただいたことに本当に感謝しています。本学関係者の皆さまには一貫して、応援していただきありがとうございます。

平井 伯昌 監督
法学部教授/水泳部監督
競泳日本代表 監督

2020年に盛大に行われるはずだった東京大会。1年の延期で選手はモチベーションを保つことが難しかったと思います。無観客や開催への反対意見、自国の開催というプレッシャーもある中、本当に皆よく頑張ったと思います。

第24回ホームカミングデーにて、東京オリンピック・パラリンピック表彰式・報告会を挙行

2021年10月24日に第24回東洋大学ホームカミングデーをオンラインにて開催しました。メイン企画の一つとして、東京オリンピック・パラリンピックに出場した本学現役学生・卒業生の選手・指導者が一堂に会した表彰式ならびに報告会の様子を配信しました。

東洋大学オリンピック・パラリンピック表彰式

本学卒業生のTBS小笠原亘アナウンサー(1996年社会学部卒業)が司会進行を務め、本学の名誉を著しく高め、本学の名を広く知らしめることに貢献したとして、安齋隆理事長より出場選手ならびに指導者に賞の授与が行われました。また安齋理事長、矢口悦子学長がお祝いの言葉を述べられ、あの夏の感動がよみがえる表彰式となりました。



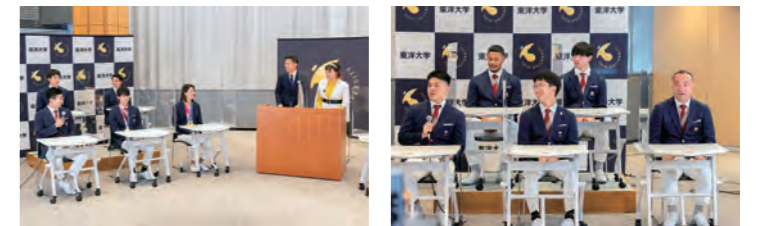
受賞選手・指導者

白井璃緒選手、酒井夏海選手、鈴木碧斗選手、青木玲緒樹選手、萩野公介選手、大橋悠依選手、服部勇馬選手、桐生祥秀選手、ウォルシュ ジュリアン選手、相澤晃選手、津波響樹選手、池田向希選手、川野将虎選手、稲葉将選手、山口凌河選手、水泳部監督 平井伯昌教授、陸上競技部短距離部門コーチ 土江寛裕教授、陸上競技部長距離部門 酒井俊幸監督、陸上競技部長距離部門(競歩担当) 酒井瑞穂コーチ

※白井璃緒選手、酒井夏海選手、青木玲緒樹選手、服部勇馬選手、相澤晃選手、水泳部監督 平井伯昌教授は当日予定が合わず、後日授与されることとなりました。

東洋大学オリンピック・パラリンピック報告会

TBS小笠原アナウンサーと本学卒業生のお笑い芸人フォーリンラブのバービーさん(2006年文学部卒業)が司会を行い、出場選手・指導者たちと東京大会を振り返りました。「大会が終わって今の心境や過ごし方の変化は?」「選手村ってどんな感じ?」「無観客での実施で感じたことは?」など、選手たちは母校での和やかな雰囲気の中、トークを繰り広げました。さらにこの報告会に参加できなかった選手・指導者からのメッセージ動画も流れ、改めて多くの本学関係者が東京オリンピック・パラリンピックで活躍したことを実感しました。



井上円了哲学センター開設記念講演会

2021年4月に開設した井上円了哲学センターの開設記念講演会として、前学長の竹村牧男名誉教授に「井上円了における哲学の展開」、湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)名誉館長の湯本豪一氏に「妖怪文化の変遷—江戸から明治へと移行行くなかで—」についてご講演いただきました。



竹村名誉教授による講演会

東洋大学オンラインクイズ大会

オンラインクイズ大会を本学卒業生でお笑い芸人のねづっちさん(1997年法学部卒業)による司会で開催。応募で選ばれた11名の卒業生とともに元ソフトバンクホークスの大場翔太さん(2008年経営学部卒業)が本学にまつわる3択問題に挑戦し、大学時代の思い出話が続けられるなど楽しいひとときとなりました。



オンラインクイズ大会

オンライン交流会

ホームカミングデーの最後は、お世話になった先生や懐かしの友人と再会できるオンライン交流会を実施。2年連続のオンライン開催でしたが、大盛況で締めくくられました。

Professor's Scoop



「“キリン博士”・郡司芽久先生に聞く、キリンの体に隠された知られざる秘密」をWebメディア「LINK@TOYO」にて公開中です。



LINK@TOYO 検索

学問の領域は広く、深く、日々進化しています。

本学の教育・研究を担う教員の目に、世界はどのように映るのか。

「好きなことを仕事にする」。簡単なようで難しいこのテーマをとことん追求するのも研究者の一つの形かもしれません。

幼少期から大好きだった「キリン」を専門に研究されている生命科学部の郡司芽久先生に、

実際に「好きが仕事」になる生き方や考え方について伺いました。

生命科学部生命科学科 助教

Profile

生命科学部生命科学科助教。幼少期から動物が好きで、東京大学大学院農学生命科学研究科の修士課程・博士課程にて特に大好きなキリンの研究を行い、27歳で念願のキリン博士となる。日本学術振興会特別研究員PDとして国立科学博物館での勤務などを経て、2021年4月より現職。専門は解剖学・形態学。哺乳類・鳥類を対象として「首」の構造や機能の進化について研究している。キリンには他の哺乳類にない「8番目の首の骨」があることを発見。第七回日本学術振興会育志賞を受賞。著書に『キリン解剖記』（ナツメ社）など。

郡司 芽久

1 解剖し「知る」ことで、 今生きる動物にバトンを。

私は子どもの頃から動物が大好きで、中でもキリンが好きでした。はっきりとした記憶はありませんが、両親が言うには頭が大きい、首が長い、鼻が長い、などユニークな見た目の動物が好きだったそうです。大学院時代からキリンの研究を始め、この10年間で30頭ほど解剖し、主に首の構造などを研究しています。

私たち研究者は動物園などで寿命を全うした、または病によって死んでしまった動物を献体していただき解剖を行います。脚や首などパーツごとに分け、筋肉や骨の構造、可動の仕方を記録します。残酷だと感じる人もいるでしょう。ですが、献体を受ける動物だけではなく、その動物たちを大事に育てた飼育員さんたちの「役に立ててほしい」という想いも大切に受けとめて、責任を持って解剖を行っています。

例えば、大型動物は脚を悪くすると死んでしまいます。野生の世界では蹄が自然と削れるのですが、動物園ではそうはいかず、歩き方が変わってしまうことで怪我に繋がることもあります。そうして亡くなった動物の状態を詳細まで調べることが、今生きている動物の怪我の予見や動物園の中でより健康で長生きするような工夫を施すことに繋がります。何もしなければ朽ちてしまう命から、「何かを残す」お手伝いができればと考えています。

2 好きなことに関わる仕事は たくさんある。

もともと私は獣医になりたいと考えていました。しかし高校生の時、獣医は時に動物を殺す選択をしなくてはいけない場面があることを知りました。動物の命を生かそうと手を尽くすことと、天寿を全うさせるため手を差し伸べないこと。どちらが正しいという話ではありません。私はどちらを選んだとしても、それでよかったという自信は持てないと思い、獣医の道を諦めました。しかし動物に関わりたいという想いは強くあり、大学時代に「キリンの研究がやりたい」とたくさんの人たちに声をかけたところ、解剖学ならキリンの研究を続けられるのではと考え、研究者への道を歩み始めました。

学生のみなさんにはぜひ、「好きなこと」の周りにはどんな仕事があるのか探してみたいと思います。私は、動物園には飼育員という仕事しかないと思っていました。しかし、関わっていくうちに広報の存在や、展示物や広告を園内で内製するためにデザイナーを雇っている動物園があることも知りました。「動物に関わる仕事＝理系」といったイメージはありませんか？ 固定観念が先行すると将来の可能性も狭くなります。世の中の出来事はたくさんの方が関わって完成しているので、思いがけない分野から「好きなこと」に繋がることもたくさんあるのです。

3 同じくらい辛いことなら 好きな方が良いでしょう。

仕事をする以上、何であれ辛いことは必ず起こるものです。全く辛い仕事はおそらくないでしょう。私の場合は同じように辛いことが起きるのであれば、好きなことをやっている方が耐えられると思いました。キリンの研究を続けるほど、さらにキリンのことが好きになっています。好きなものに触れ、日々新たな発見に喜びを感じています。そして、分野は違っても同じように「好き」を突き詰めた多くの研究者たちが私の周りにはいて、とても居心地良く感じます。同じような意志を持った人が集まりやすいのも、好きを仕事にするメリットかもしれません。

よく「好きなことだけやって生きていけるのか」と聞かれます。しかし「安定した生活」とはなんでしょう。誰もが知る憧れの有名企業に入社しても3年で辞める友人もいました。今回、コロナの影響でさまざまな企業が大きな赤字を抱えました。何が起るかわからない今の時代、就職先だけで一生安定するとはいえません。しかし、好きなことは極めればそれが誰かにすぐ必要とされる可能性がある。これまでになかったような仕事を生み出すことだってできるかもしれない。好きという気持ちを原動力に、自分にしかできないものを見方や発想を身につけることで、実は「安定」に近づけるのではないのでしょうか。

4 「好きなこと」を軸に 自分にとって大切なものを探す。

「やりたいことが見つからない」「好きなことがわからない」と学生から相談されることがあります。思春期から大人になるにつれて「自分はこれが好きだ!」と公言することは気恥ずかしくなると思います。しかしそうやって感情に蓋をしているうちに、心の動き自体が鈍くなるものです。好きな音楽や本…、身近なことでテンションが上がる瞬間は必ずあるはずで、自分はこれが好きだと思える瞬間を自覚することを大切に、心の動きにアンテナを張ることから始めてほしいと思います。

私は好きなことが仕事になりましたが、誰もが「好きを仕事にする」必要はありません。大事なことは「どうやって生きていきたいか」を大切に将来を考えること。「キリンの専門家になる」と「完全週休2日制の会社に入って、休日には欠かさず動物園に行く」というのは同じくらい素敵な生き方だと思います。将来を考える上で「好きなこと」という軸を設けて判断してみてください。「趣味で好きなことができればいい」「これこそ天職なのか」… そのように好きなことを中心に考え方を広げていくことで、思いもよらない関わり方をする仕事が見つかったり、同じような趣味嗜好の人がどんな生き方をしているのかを知るきっかけにもなると思います。

TOYO UNIVERSITY FESTIVAL REPORT 2021

東洋大学 大学祭レポート 2021

昨年に続きオンラインで行った東洋大学の大学祭。今年はどうのように準備をして開催したのか、4キャンパスの大学祭実行委員長の座談会の様子をレポートします。

今年もオンラインによる開催が6月に決定して…

白山祭実行委員長 吉田さん 新型コロナウイルス感染症が依然収まらないなか、大学祭実行委員として学生生活やその先の未来に笑顔や希望をもたらす何かができないかと模索する毎日でした。6月に今年もオンラインでの開催に舵を切ることになりましたね。

INIAD-FES実行委員長 松岡さん 情報系の学部で学ぶ私たちは対面・オンラインのどちらでも開催できるように準備を進めていました。昨年もITの力を駆使してバーチャル上にキャンパスを再現して遊びに来てもらうコンテンツを用意しましたが、今年はいよいよ「体験」を意識した大学祭にしたいと思っていました。

WELLB-FES実行委員長 松本さん 昨年もオンラインで開催していたので心構えはできていましたが、やはり対面できないことは正直残念で…。4月に赤羽台キャンパスに移転してきたばかりだからこそ、新しく出会う人たちと直接交流ができる場にしたかったですね。

こもれび祭実行委員長 橋本さん 川越キャンパスは昨年は中止となり、今年が初めてのオンライン開催でした。昨年のノウハウがない分、不安な気持ちは大きかったです。しかし、今後こもれび祭を続けていくために私たちが基盤を作らなければと意気込んで臨みました。

昨年の経験を生かして引き継いだもの、見直したもの

橋本さん 私たちは初めてだったので、何



▲生配信のリハーサル(白山祭)

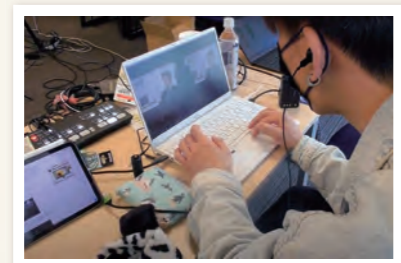
から手をつければいいのか戸惑いました。スケジュールの立て方や当日の動き方、準備や進捗の確認や感染予防対策など心配事は尽きませんでした。皆さんは昨年から変わったことはありませんでしたか。

吉田さん ZoomやLINEを使ったオンライン会議やスケジュール・進捗管理などは使い慣れていたので、昨年よりもスムーズに運営できたと思います。

松岡さん 情報連携学部(INIAD)では基本的にはSlackというビジネス用ツールを使ってコミュニケーションからタスクの確認まで幅広く管理をしていました。授業でも使っているため、うまく活用できたと思います。

松本さん 「とにかく情報共有を！」と先輩からは何度も言われていました。しかしオンライン上だといくら顔が見えていたとしても、感情や大事なものが伝わりきらないと感じていたので、情報共有はいつも丁寧に、そしてメンバーのモチベーションを維持できるよう昨年以上に密なコミュニケーションを心がけていました。

松岡さん 私たちも今年には月に一度、現況を確認する報告会を委員会内で行いました。他にもメンバーがどのような状況か、頻繁に確認してコミュニケーションが途切れないようにしていましたね。



▲動画配信の裏側(INIAD-FES)

橋本さん なるほど。私たちが各局長がすべての状況を把握してこまめに確認しながら、全体との連携もしっかりとれるような体制をとりました。

吉田さん 白山祭では生配信のコンテンツもありました。昨年は生配信中に無音状態や映像のトラブルが起きて対応に時間がかかる場面もあったので、今年はそれを最小限に抑えようと、生配信用のチームを設

置して入念に準備を進めてきました。その結果、トラブルが起きても、一時的に画面を切り替える「蓋絵」を用意することで、昨年の反省点を改善できました。



▲ステージ壁面の装飾作業(WELLB-FES)

オンラインならではの楽しみを生み出すために

橋本さん 昨年の経験がない分、私たちは他大学のオンライン大学祭なども参考にしたりして、どのような企画だと参加者に楽しんでもらえるのかを考えていきました。ライブステージを設営して動画を制作しましたが、リアルタイムでの映像配信まで実現できれば、もっと大学祭の臨場感を楽しんでもらえたかもしれません。

吉田さん 今年は東洋大生と高校生をメインターゲットに企画を構成したのですが、ターゲット層のニーズを把握し、視聴意欲のわく企画を考えるのはやはり難しかったですね。東洋大生以外にも大学の魅力や雰囲気伝わるように企画を何度も練り直して、部活動や留学生との交流企画なども導入してみました。

松本さん 確かに企画のセンスを問われたような気がします。対面とは違い、オンラインでは「何か体験できる」といった部分がどうしても減ってしまいます。そんな状況でもいかに興味をもってもらえる企画を生み出せるかがカギでしたね。

松岡さん 私たちは前回好評だったバーチャルキャンパスを今年も継続しました。映像配信だけではなく、Web上のバーチャルキャンパスを移動しながら、教室に行き企画を見ることができると、実際にキャンパスを訪れたような体験をしていただけたと思います。

2021.10.30-31

白山祭 白山キャンパス	INIAD-FES 赤羽台キャンパス 情報連携学部
WELLB-FES 赤羽台キャンパス ライフデザイン学部	こもれび祭 川越キャンパス

※雷祭(板倉キャンパス)は今年度中止となりました。



▲ライブステージの設営(こもれび祭)

2度のオンライン開催で生まれたもの。そして来年に向けて…

松岡さん INIAD-FESは学部での学びを生かしてITの力を駆使した開催が特徴です。私自身Webサイトの構築を学びだしてから3年目となり、上級生から教わった映像制作やシステム周りの技術を先輩たちが自分自身で消化し、どんどん成長してくれました。そのように頼もしい姿を見て、来年の開催が楽しみだと感じたほどです。

松本さん 1、2年生はお互いに顔を合わせる機会も少ないまま活動を続けてきました。来年は対面でできることを心から願っていますが、来年対面開催に戻ったら、2年連続のオンライン開催で経験していないことばかりできっと苦勞も多いだろうと心配にもなります。

橋本さん 初めてのオンライン開催でとにかくあっという間に過ぎた1年間でした。ずっと準備してきたものがようやく終わった安心感とともに寂しさも感じています。来年以降は、今年多くのことを経験しパワーアップした先輩たちがまたぎつと素敵な大学祭にしてくれると期待しています。

吉田さん 思うように活動ができない中、新たなものを作り上げる難しさに、時に心が折れそうになることもありましたが、多くの人に支えられて着実に歩みを進めるうちに、前向きな気持ちに切り替えることができました。来年以降がどのようなかたちで行われるかはまだわかりませんが、かたちは違っても積み上げてきたものを生かしてさらに「新しい大学祭」を創るチャンスでもあると思います。そして新たなスタートを切る先輩たちが今年以上の大学祭を開催してくれることを楽しみにしています。

第5回 白山祭「繋(つなく)～今こそ手を取り合って～」



白山祭実行委員長
経営学部
経営学科 3年
吉田 直矢さん

今年のテーマは「繋(つなく)～今こそ手を取り合って～」。人となかなか会うことができない今だからこそ明るく手を取り合っていきたい、この白山祭が人々を繋ぐ架け橋になればという願いを込めました。生配信のコンテンツを増やしたり、日比谷花壇様と協力して3D映像が流れるオーナメントをつくり点灯式を行うなど、心に明るく暖かい光を灯すような企画をお届けしました。



MINNIESによるチアリーディング



国際企画留学生トーク

第5回 INIAD-FES「Hello, New Normal!」



INIAD-FES実行委員長
情報連携学部
情報連携学科 3年
松岡 励さん

今年でINIAD-FESは5周年という節目を迎えました。そのテーマは、1年目の「Hello new World」になぞらえて「Hello, New Normal!」。コロナ禍であっても私たちの強みであるIT技術を使って、新しい時代(ニューノーマル)の大学祭を作り上げることを目指しました。プログラミングやITスキルを駆使したサークルの企画展示など、INIADならではの魅力が詰まった大学祭になったと思います。



脱出ゲーム企画



演劇サークルの展示

第1回 WELLB-FES「New Canvas」



WELLB-FES実行委員長
ライフデザイン学部
人間環境デザイン学科 3年
松本 侑里南さん

キャンパスを赤羽台に移転して初めての大学祭。新たなキャンパスを私たちに色付けて、盛り上げていきたいと「New Canvas」をテーマにしました。お笑いライブや学科紹介動画などに加え、同じキャンパスになったINIAD-FES実行委員会との合同企画も行いました。私たちライフデザイン学部、そして新たな赤羽台キャンパスについて知っていただける大学祭になりました。



ラジオ企画(未成年・青年の主張!!!) 学科紹介



第12回 こもれび祭「コロナでみんな不安よな こもれび動きます」

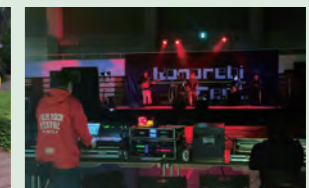


こもれび祭実行委員長
理工学部
建築学科 3年
橋本 成実さん

初のオンライン大学祭のテーマは「コロナでみんな不安よな こもれび動きます」。川越キャンパスもサークルや部活動などに制限がある中で、こもれび祭が先陣を切って新たな活動の在り方を示していきたいという気持ちを込めました。これまで屋外で行っていたライブイベントのステージを体育館内に設営し、周辺への騒音問題も配慮しました。



こもれびーを探せ



軽音楽部によるライブ



写真は、前回(第97回)の大会スタート直後

写真：日刊スポーツ/アフロ

第98回箱根駅伝 2022年1月2日・3日

その1秒をけずりだせ!

チーム一丸となって粘り強い走りを見せた前大会では、往路2位・総合3位に輝いた。選手自らが考えた今季のスローガン「鉄紺の証明」を胸に、総合優勝に挑む。

今季は関東インカレでの低迷によって、2021年箱根駅伝3位返り咲きで浮き足立っていたことに気付き、危機感を持って夏合宿に臨みました。また今夏の東京オリンピックで日本代表として出場したOB選手の活躍に大いに勇気づけられ、東洋大学のプライドにかけて駅伝シーズンでは巻き返しを誓う強い気持ちが芽生えてきました。

出雲駅伝では主力選手を欠きながらも、最後まで粘り切り3位となりました。若手主体で臨んだ全日本大学駅伝では出雲駅伝の勢いで、3位以内の目標を立て大会に臨みましたが、14年ぶりにシード権を逃す結果となりました。ミスのない駅伝を目指していましたが、挽回する力が足りていませんでした。チームとしてこの結果を真摯に受け止めています。残り期間は限られますが、チームの課題克服に努め、箱根駅伝までに立て直しを図っていききたいと思います。新型コロナウイルス感染防止のため沿道や中継所、スタート、ゴール地点等での観戦に制限があります。在学生、校友の方々が一つになれる機会が少ない中で、箱根駅伝で東洋大学の存在感を示し、皆さまにとって2022年の幕開けにふさわしい走りをお届けしていきたいと思っております。ご声援の程、よろしくお願いいたします。



陸上競技部 長距離部門

酒井 俊幸 監督

Profile

1976年生まれ、福島県出身。東洋大学経済学部卒業。1999年、コニカ(現・コニカミノルタ)に入社。退職後、母校の学校法人石川高校にて陸上部顧問を務め、2009年4月より東洋大学陸上競技部長距離部門監督に就任。



チームエントリー候補選手紹介 (11月24日時点) 学年・氏名五十音順

<p>蝦夷森 章太 Shota Ezomori</p> <p>学部学科 ライフデザイン学部健康スポーツ学科4年</p> <p>出身校 愛知高校(愛知)</p>		<p>九嶋 恵舜 Keishun Kushima</p> <p>学部学科 経済学部経済学科2年</p> <p>出身校 県立小林高校(宮崎)</p> <p>2021箱根 6区/区間14位 2021出雲 4区/区間2位 2021全日本 3区/区間8位</p>	
<p>腰塚 遥人 Haruto Koshizuka</p> <p>学部学科 総合情報学部総合情報学科4年</p> <p>出身校 県立桐生工業高校(群馬)</p>		<p>佐藤 真優 Mahiro Sato</p> <p>学部学科 総合情報学部総合情報学科2年</p> <p>出身校 東洋大学附属牛久高校(茨城)</p> <p>2021全日本 1区/区間12位</p>	
<p>藤城 裕大 Yudai Fujishiro</p> <p>学部学科 経済学部経済学科4年</p> <p>出身校 県立浜松商業高校(静岡)</p>		<p>菅野 大輝 Hiroki Sugano</p> <p>学部学科 経済学部経済学科2年</p> <p>出身校 県立姫路商業高校(兵庫)</p> <p>2021全日本 6区/区間13位</p>	
<p>宮下 隼人 Hayato Miyashita</p> <p>学部学科 理工学部電気電子情報工学科4年</p> <p>出身校 県立富士河口湖高校(山梨)</p> <p>2021箱根 5区/区間3位 2021全日本 8区/区間6位</p>		<p>松山 和希 Kazuki Matsuyama</p> <p>学部学科 総合情報学部総合情報学科2年</p> <p>出身校 学法石川高校(福島)</p> <p>2021箱根 2区/区間4位 2021全日本 7区/区間13位</p>	
<p>大沼 翼 Tsubasa Onuma</p> <p>学部学科 総合情報学部総合情報学科3年</p> <p>出身校 東海大学山形高校(山形)</p>		<p>村上 太一 Taichi Murakami</p> <p>学部学科 理工学部電気電子情報工学科2年</p> <p>出身校 道立北見緑陵高校(北海道)</p>	
<p>柏 優吾 Yuga Kashiwa</p> <p>学部学科 経済学部経済学科3年</p> <p>出身校 豊川高校(愛知)</p> <p>2021出雲 6区/区間7位</p>		<p>石田 洸介 Kousuke Ishida</p> <p>学部学科 総合情報学部総合情報学科1年</p> <p>出身校 東京農業大学第二高校(群馬)</p> <p>2021出雲 5区/区間8位 2021全日本 4区/区間8位</p>	
<p>児玉 悠輔 Yusuke Kodama</p> <p>学部学科 経済学部経済学科3年</p> <p>出身校 東北高校(宮城)</p> <p>2021箱根 1区/区間9位 2021出雲 1区/区間7位</p>		<p>梅崎 蓮 Ren Umezaki</p> <p>学部学科 総合情報学部総合情報学科1年</p> <p>出身校 県立宇和島東高校(愛媛)</p> <p>2021全日本 5区/区間4位</p>	
<p>清野 太雅 Taiga Seino</p> <p>学部学科 経済学部経済学科3年</p> <p>出身校 県立喜多方高校(福島)</p> <p>2021箱根 10区/区間9位</p>		<p>甲木 康博 Yasuhiro Katsuki</p> <p>学部学科 総合情報学部総合情報学科1年</p> <p>出身校 城西大学附属城西高校(東京)</p>	
<p>前田 義弘 Yoshihiro Maeda</p> <p>学部学科 経済学部経済学科3年</p> <p>出身校 東洋大学附属牛久高校(茨城)</p> <p>2021箱根 3区/区間8位 2021出雲 3区/区間6位 2021全日本 2区/区間8位</p>		<p>小林 亮太 Ryota Kobayashi</p> <p>学部学科 総合情報学部総合情報学科1年</p> <p>出身校 豊川高校(愛知)</p>	
<p>奥山 輝 Hikaru Okuyama</p> <p>学部学科 総合情報学部総合情報学科2年</p> <p>出身校 浦和実業学園高校(埼玉)</p>		<p>吉田 周 Shu Yoshida</p> <p>学部学科 総合情報学部総合情報学科1年</p> <p>出身校 広島国際学院高校(広島)</p>	

コース沿道での観戦・応援自粛のお願い

大会当日はラジオ・テレビ放送等が予定されていますので、ぜひメディアを通して選手たちへ熱い声援をお送りください。

	2022年1月2日 —往路—	2022年1月3日 —復路—
ラジオ日本 (FM92.4、AM1422)	7:30~14:25	7:30~14:30
日本テレビ	7:00~14:05	7:00~14:18

箱根駅伝応援サイト「鉄紺応援ボタン」

毎年好評の鉄紺ユニホームを着たランナーを応援する「鉄紺応援ボタン」。応援ボタンを押せば押すほど、魅力あるキャラクターがデジタルの沿道に登場し大会を盛り上げます。実際の沿道での観戦や応援の自粛が求められていますので、代わりにこのボタンを通して選手たちへエールを伝えましょう!



箱根駅伝応援ボタンサイト <https://www.toyo.ac.jp/tetsukon/>

東洋大学陸上競技部(長距離部門) 公式Instagram

大会に向け、日々練習に励む選手たちの情報が発信される部の公式アカウントです。3.7万フォロワーを超えるこのアカウントでは、大会出場情報や大会結果・ハイライトを写真でお届け。フォローをして情報をいち早く入手し、選手たちを応援しましょう。



Special Interview OB・OGの今

Alumni Report

現役引退直後の監督就任。
高校生を指導する難しさを実感。

私は今年4月に東洋大学附属牛久高校 駅伝部の監督に就任しました。現役引退後、所属していた実業団のコーチとして就任した直後で、指導者としての経験はまだ何もない状態でのオファーでした。きちんと下積みを重ねることも大切であると思いましたが、当時所属していた実業団の監督から指導者の目線で考えることを身につける工夫をしたらどうかとのアドバイスを受け、母校からのオファーという縁やタイミングも同様に大事だと考え、指導者の道を歩むことを決めました。

現役時代には大腿骨骨折という大怪我を負い、2度の手術を経験しました。手術後は脚も曲がらない状態からリハビリを始めることになり、それは当時、選手の私にとってつらく地道なものでした。それでもリハビリを続けていくと徐々に脚は曲がるようになり、トレーニングを再開でき、最終的に34歳まで現役を続けることができました。「やり続けたら力になる」とよく言いますが、この経験が指導者としての強みになる大切な教訓となりました。アスリートにとって怪我は切り離せないもの。壁にぶつかった時、リハビリに苦しむ時、自らの体験をもとに選手を導くことが、自分の使命だと思っています。また、今なら現役を退いたばかりなので高校生たちと一緒に走って指導することもできます。MGC*出場や海外マラソン入賞など日本のトップレベルで走っていた姿を実際に見せて伝えられることも強みだと思っています。

監督に就任した直後は、駅伝部には楽観的な雰囲気を感じました。良くも悪くも仲が良く、楽しくやるのが第一。チームのエースだった選手が卒業し、リーダーシップを取れる選手もいない中で難しいタイミングだったと思います。部活動を楽しむことも大切ですが、あくまでスポーツ競技の本当の楽しさは、練習を頑張って試合で結果を出すこと。そして学校法人東洋大学から強化部として認められた部活であるという意味も理解してほしかった。私の最初の仕事は、選手たちの意識作りでした。また、大学から本格的に陸上競技を始めた私が設定する練習内容は、自らが経験してきた大学や実業団で活躍する選手が行う練習をベースとしており、それらは高校生にとってキャパシティを超えるものだったので、成長期である彼らにどれくらいの練習を合わせていくかも難しい課題となりました。

*2019年9月に開催された東京オリンピックマラソン日本代表の選考レース

「自ら考えること」の大切さ。
考える習慣を身につけた選手の育成へ。

指導する上で私は「自ら考えること」を最も大切にしています。最近ではスマホ1つで簡単に情報を調べられる時代。皆、情報を吟味しなくなりました。例えば、トレーニング方法においても自分自身の身体に適しているかも考えず、良いものができたと考える選手は実業団の中でさえいます。私は就任直後から毎日練習が終わった後に「今日はどうだった?」と選手に聞いています。最初は「後半に離された」と一言。それでも繰り返して聞いていくと、徐々に「体力を使いすぎて後半に遅れた。睡眠不足でリカバリーができなかった」と原因まで考えて具体的に返すようになってきます。自分のコンディションや体調、能力を把握することを通じ、自分で考える習慣を身につければ、競技以外においてもきっと力になると思います。

とはいえ、結果を出すことも選手の成長には不可欠です。夏頃までは結果がついてきませんでした。10月の県大会では2位に。大会が近づくにつれて良い意味での緊張感が生まれてくるようになりました。私も一人一人に言葉をかけることで日々成長の種を蒔いてきましたが、誰一人として2位という結果には満足しておらず、選手たち自らが変わってくれたと感じました。タイムだけで見れば、全員がベストを出し切ったといえる内容。それでも終盤で逆転された選手だけでなく、区間新記録を出した1年生も「チームとして結果が出なかった。悔しい」と真摯に結果と向き合ったことは大きな成長です。中には「区間新を出した1年生と同じ記録会に出してほしい」と頼んできた選手もいました。仲の良いチームから、絶対に負けたくないという強い意識がチーム内に芽生えてきている。非常に良い成長のサイクルができ始めたので、この状態を継続させていくことが私のこれからの仕事です。

今後の目標としては、都大路(全国高等学校駅伝競走大会)の大舞台上位に食い込めるようなチームにしていきたいと考えています。そして、走ることを通じて若き世代が素晴らしい人生を送れるよう指導していきたいと思っています。

Profile

2009年、経済学部経済学科卒業。在学中は陸上競技部に在籍し、大学三大駅伝などで活躍。4年時には箱根駅伝のエース区間2区を担当し、本学を初の総合優勝に導いた。卒業後はコニカミノルタに所属し、2016年ニューヨークシティマラソンでは日本人男子最高順位となる4位、2019年にはMGC(マラソングランドチャンピオンシップ)に参戦。2021年3月末をもって現役を引退し、指導者の道を進み始める。

東洋大学附属牛久高等学校 陸上競技・駅伝部監督

山本 浩之 やまもと ひろゆき

NEWS 01 活気に満ちた学生生活を取り戻すために コロナ禍における本学の取り組み

新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向が続いている状況を踏まえ、11月1日より本学の新型コロナウイルス感染拡大防止のための東洋大学行動指針を「レベル1（自粛要請・制限等は出ていないが、感染への注意が必要な状態）」に引き下げました。

これに伴い、授業・教育活動における対面授業の比率を高め、課外活動についても段階的に再開しました。本学では今後も感染状況を鑑みながら、安心して学べる環境を整えていきます。



感染防止に留意した対面授業の風景

新型コロナワクチン大学拠点接種を実施

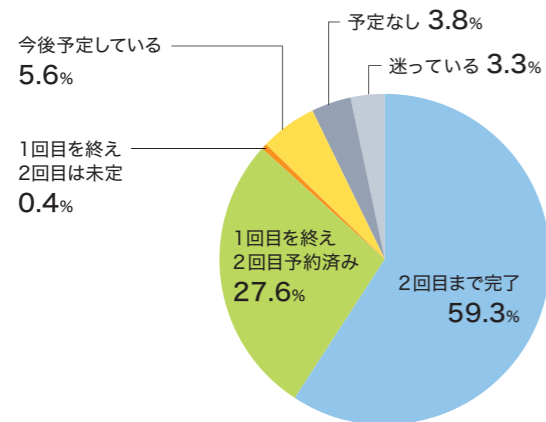
本学では政府発表方針に沿い、早期からワクチン大学拠点接種の実現に向けて検討を進めておりました。国内でのワクチン配送の遅延から接種時期の延期・会場規模の縮小はありましたが、8月20日より予約を受け付け、9月2日より白山・川越キャンパスにて1回目の接種を開始しました。10月18日までに、学生・教職員・本学関係者や全教職員の同居家族の方を対象に2回のワクチン接種が完了しました。



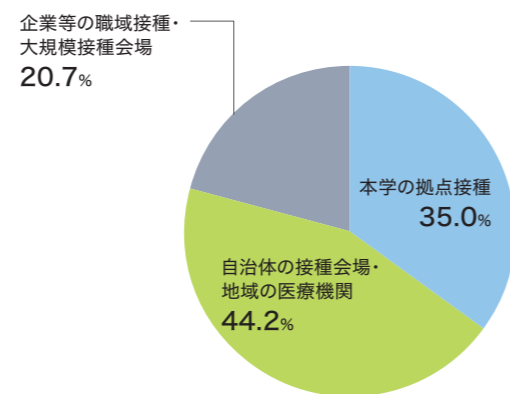
在学生のワクチン接種状況

秋学期の授業計画立案の参考とするため、10月上旬に在学生（学部・大学院）を対象とした新型コロナワクチン接種状況調査をWebアンケートにて実施しました。調査では、回答した学生の92.9%が「接種済み」または「接種予定」（2回目は未定を含む）であると回答。このうち約6割の学生が調査時点で2回目の接種まで完了し、3割近い学生が2回目の接種予約まで済んでいることがわかりました。また、接種をした中で本学の大学拠点接種を利用した学生は35%となりました。

新型コロナワクチンの接種状況



ワクチン接種した会場



※小数第二位を四捨五入

(総回答数)11,219件 (回答率)36.4% (回答期間)2021年10月1日～10日

NEWS 02 創立者 井上円了の志を受け継ぎ、 哲学に想いを馳せる哲学堂祭を挙

2021年11月6日に、2021年度哲学堂祭を東京都中野区の蓮華寺と哲学堂公園にて挙りました。蓮華寺での墓前祭で、読経や参列者による焼香、矢口悦子学長による円了の遺した唱念「南無絶対無限尊」の三唱などを行った後、哲学堂公園内にある四聖堂にて、本学の創立者 井上円了の曾孫である井上進氏による遺文朗読が行われました。その後、宇宙館での記念講演では、『ラグビーの哲学－論語に学ぶONE TEAMの作り方』の著者で井上円了哲学センター副センター長の理工学部吉田善一教授が「論語とラグビー」と題し、孔子が唱えた論語とラグビーにおけるチームプレー思想の共通点などを講演しました。円了が精神修養の場として創設した哲学堂公園にて、改めて哲学を考える時間となりました。



吉田善一教授による「論語とラグビー」講演の様子

哲学堂祭とは毎年11月の第1土曜日に、哲学の普及を願った本学の創立者井上円了の遺言に基づき執り行います。記念講演では、哲学堂公園の四聖堂に祀られる哲学の四聖（釈迦、孔子、ソクラテス、カント）から1人をテーマに毎年講演を行っています。

NEWS 03 陸上競技部 長距離部門が、 学生三大駅伝「出雲駅伝」「全日本大学駅伝」に出場

2021年10月10日、陸上競技部 長距離部門が学生三大駅伝の初戦となる第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走に出場しました。コロナ禍の影響で2年ぶりとなる出雲路を全20チームで駆け抜け、4区九嶋恵舜選手（経済学部2年）が区間2位、5区石田洗介選手（総合情報学部1年）が区間賞の走りを見せ2位に躍り出ると、最後は第3位でフィニッシュ。1・2年生が躍動した大会となりました。

11月7日に開催された秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会では、4区を走った石田洗介選手が出雲駅伝に続く好走で2大会連続の区間賞を獲得。最終順位は10位となりましたが、全選手が「その1秒をけずりだせ」を体現し、最後まで諦めない懸命な走りを見せてくれました。8位までに与えられるシード権に52秒届かず2008年以降13年連続で守ってきたシード権を逃す結果となりましたが、酒井俊幸監督は「チーム全員が危機感を持って箱根駅伝に向けて立て直します」と話しました。選手たち自らが考えた今年度のスローガン「鉄紺の証明」。本学のスクールカラーである鉄紺色の襷を繋ぐ選手たちの強さを証明する走りに期待が集まります。



全日本駅伝8区 宮下選手



出雲駅伝5区 石田選手

▶ 出雲全日本大学選抜駅伝競走

1位	東京国際大学	2:12:10
2位	青山学院大学	2:14:07
3位	東洋大学	2:14:13

▶ 全日本大学駅伝対校選手権大会

1位	駒沢大学	5:12:58
2位	青山学院大学	5:13:06
3位	順天堂大学	5:14:20
10位	東洋大学	5:17:58

10月～11月に「TOYO SDGs Weeks」に多彩な企画を実施 SDGsを推進する49名の「SDGsアンバサダー」が誕生

NEWS 04

本学は「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」を制定し、SDGsの達成に向けて包括的に取り組んでいます。その一環として、10月1日～11月30日の2ヶ月間を「TOYO SDGs Weeks」とし、本学の学生・教職員、地域の方々等を対象としたSDGsに関連するさまざまなプログラムを実施しました。シンポジウムやコンテスト、ワークショップなどの多様な機会の提供により、SDGsを“自分ごと”として捉えられるよう理解の促進を図りました。

また、学内のSDGs活動の一層の活性化、充実および発展を図るために、学生個人または学生団体に対して「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を付与する制度を設け、11月2日に学生49名が制度初のアンバサダーに認定されました。今後は本学におけるSDGs活動の普及推進を目的とした企画実施や情報発信など主体的に活動していきます。

TOYO SDGs Weeks実施プログラム一覧 (2021年11月12日時点)

<シンポジウム>

東洋大学・東京東信用金庫 第3回共催シンポジウム
「TOKYOイーストの“未来志向”と地域中小企業のDX・新事業推進」

国際共生社会研究センター 出版記念シンポジウム
「パンデミック時代のSDGsと国際貢献—2030年のゴールに向けて—」

<講座>

ノルウェー大使特別講演会

SDGsに関わる環境教育 (Environmental Education toward SDGs)

「好き」を通じてフクシを変える、社会を変える

食品ロス削減と保存料—SDGs目標12の推進—

子どもの貧困への挑戦
—社会的養護の現場での取り組みから考える—

知的障害特別支援学校におけるICTの利活用：
読む、聞く、話す、書くへの支援

「企業と人権」～SDGsと人権について学ぼう～

「防災の思想」～避難情報廃止論と防災プラグマティズム～

生命科学部コミュニティ活性化のための学生ファシリテーター
養成プログラム「身近なところから始めるSDGs」

SDGsカードゲームを通じてSDGs×人権を学ぶ

<ワークショップ>

東洋大生がワークショップで考える初めてのSDGs

ティキャンパで遊ぼう会 (里親家庭とのティキャンパ)

オンラインTGLキャンパ「SDGsの目標達成について考える」

<コンテスト>

SDGsコンテスト (ポスター部門/川柳部門/動画部門)

第1回 Toyo University Eco Projects (TUEP) デザインコンテスト

<その他>

食料品支援プロジェクト Hands to Hands 2021

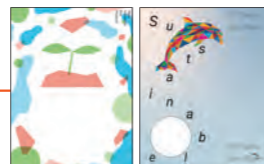
東京2020オリンピック・パラリンピック
学生ボランティア報告会

人間科学総合研究所「モンゴルにおける障がい児
インクルーシブ地域づくり連続セミナー 2021」



講演後にノルウェー大使に質問する学生

10月27日、法学部ではノルウェー王国大使 インガ・M・W・ニーハマル閣下をお招きし、学生のグローバルな視野を育てる機会として外交政策について特別講演会を行いました。例年、国際的な視野・知識・経験を持った学生を育成するために、英語で学ぶ平和学研修としてノルウェーに渡航していましたが、コロナ禍により中止せざるを得ませんでした。そうした状況のなか、ノルウェーの平和構築や紛争解決、国際援助について国内でも学ぶ貴重な機会となりました。



外装紙2部門の大賞作品
「Inside Nature (左)」「脱プラとイルカ (右)」

学生団体「Toyo University Eco Projects」が脱プラスチックを目的として、大学生協で販売されている商品の外装 (パッケージ) および紙のマスクケースのデザインコンテストを実施しました。「SDGsを身近に感じるデザイン」を今回のテーマとしたコンテストには103件の応募があり、10月31日の大学祭で入賞者が発表。外装紙部門では、本学の学生2名が大賞に輝きました。大賞に選ばれたデザインは、株式会社イムラ封筒との開発により製品化が予定されています。



学生にパンを手渡す様子

本学では、コロナ禍で不安を抱える学生の学業を継続する環境や意欲を支えることを目的として、食料品支援プロジェクト「Hands to Hands」を2020年度から実施しています。卒業生、保護者、教職員、学生、大学生協等から食料品を寄贈いただき、これまでに多くの学生が利用しています。4回目となる活動が11月1日から各キャンパスで行われ、数島製パン株式会社のご支援により、Pascoブランドのパン配布も行われました。



Toyo University supports the Sustainable Development Goals

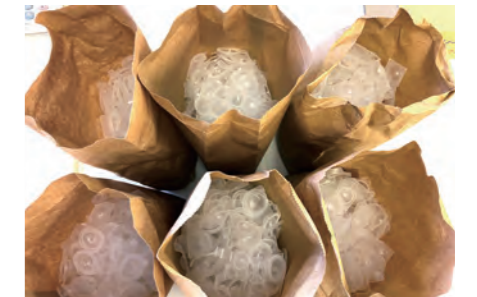
「東洋大学 × BLUE SEED PROJECT」 株式会社シードと共同でSDGs活動を推進

NEWS 05

2021年4月～7月、本学とコンタクトレンズの製造販売を行う株式会社シードは、SDGsへの取り組みとして使用済みプリスター (コンタクトレンズのプラスチックケース) の回収を行いました。海洋汚染の原因にもなっている廃プラスチックは世界的に極めて大きな問題であり、現在プラスチック削減へのさまざまな取り組みが広がっています。

今回の活動は、社会学部社会福祉学科における、社会福祉学総合演習のフィールドワークの一環として行われ、学生が主体となり白山キャンパス内でプリスターを回収。回収したプリスターは株式会社シードが行っている「BLUE SEED PROJECT」にて物流パレット (荷物を載せるための荷役台) に再製品化されます。

学生たちはプロジェクトの主旨や海洋ごみ問題の現状、プリスター回収の状況等をSNS等で発信するなど積極的に活動。回収したプリスターは約2週間で合計1,713個となりました。この活動を通して「プラスチックを使わない生活は難しいため、リサイクルなど工夫していきたい」といった環境意識の高まりや「自分に足りない部分や強みを見つけることができた」など自己の成長に関する声が集まりました。また、活動後には、福岡県立軟手高等学校の生徒が「総合的な探究の時間」の調べ学習の中で、活動に取り組んだ学生とオンラインで意見交換をしました。



学内で回収されたコンタクトレンズのプリスター



株式会社シード本社前にて回収したプリスターを持参した学生たち

INFORMATION

白山キャンパス 就職・キャリア支援室で 就職活動用「個室防音ブース」の利用を開始しました。

白山キャンパス6号館1階 就職・キャリア支援室では、2021年10月20日より就職活動でのオンライン面接やグループディスカッション、インターンシップなどのオンラインで行われる就職活動イベントへの参加を目的とした「個室防音ブース」を2台設置し、貸し出しを始めました。

住まいの環境によりオンライン面接中に雑音が入る、集中することが難しいといった学生を支援するため、面接に必要な静穏性と機密性を備え、ブース内は換気、照明、遮音性を十分に確保し、周りを気にせずに発言することも可能です。利用した学生からは「授業の合間に大事なオンライン面接があったので集中できる環境が整っていたよかった」などといった声が届いています。事前予約制で、全学年・全キャンパスの学生が利用できます。

利用方法

事前予約制 (ToyoNet-Gより予約)

※予約方法・詳細は、ToyoNet-ACEの各コースでご確認ください。

利用時間

当面の間、1人あたり1日2枠を利用上限とします。

ブースA	ブースB
10:20 ~ 11:40	10:20 ~ 12:10
11:50 ~ 13:10	12:20 ~ 13:40
13:20 ~ 14:40	13:50 ~ 15:10
14:50 ~ 16:10	15:20 ~ 16:40
16:20 ~ 17:40	16:50 ~ 18:50
17:50 ~ 18:50	

※利用時間枠は変更となる場合があります。

注意点

パソコンは各自持参してください。(貸出も可)
その他、注意点はToyoNet-ACEでご確認ください。

※利用可能日、予約方法は変更となる場合があります。

